

別紙様式3

平成28年度 第3回 不破高等学校活性化協議会 議事要旨

日 時	平成29年2月16日(木) 13:30~15:10
場 所	不破高校 ガイダンス室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>岩田 親昌 垂井町立北中学校校長 竹内 治彦 岐阜経済大学副学長 中川 敏之 関ヶ原町教育長 永澤 幸男 垂井町副町長 丹羽 豊次 不破高校同窓会会長 藤壇 守 岐阜県議会議員 三浦 高雄 垂井町商工会事務局長 山田 直美 垂井町立不破中学校教頭 和田 満 垂井町教育長</p> <p>(高校側)</p> <p>岩田 善隆 校長 棚橋 毅 教頭 橋 博 教務主任 川瀬 英樹 進路指導部長 下野恵理子 特別活動部長</p>
議事概要	<p>1 今年度の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不破高校は、全ての生徒が学びやすいユニバーサルデザインの授業が行われており、少人数指導が充実していることについて、中学校はよく理解しており、中学生の保護者にとって安心感のある高校である。 ・ 中学校で不登校だった生徒が、高校で生き生きと活躍している姿を見た。高校で大きく成長してくれたことが大変うれしく、少人数による手厚い指導の賜だと感じている。 ・ 演劇表現ワークショップは、生徒の自己肯定感を養い、コミュニケーション能力を高める上で、大変効果があると感じる。 <p>2 来年度の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校が活性化するとはどういうことか。何が一番の課題で、何に一番取り組んでいくべきなのか。もう一度原点に戻って考えることが大切ではないか。 ・ 成果の見える授業法の確立の検討が重要である。アクティブ・ラーニングも必要だが、生徒の関心を引き出す授業作りの研究に重点を置くとよいのではないか。 ・ 生徒のボランティア活動をより一層発展させ、垂井町や関ヶ原町の歴史遺産等について、外国人向けに観光ガイドをするような取組を検討してはどうか。垂井町や関ヶ原町、大学、県と高校が一体となって、観光科の新設等についても検討できないだろうか。 ・ 外部人材を指導者とした行事等の計画も有効ではないか。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">• 職場体験、デュアルシステム、企業人講師による授業に、起業家教育の視点も加えるとよいのではないか。• 就職希望の生徒や保護者に地元企業の魅力を伝えることで、地元企業に就職する生徒が増えてほしい。• 全国の先進事例に見た、通学経費の補助、公営塾の設置、土曜講座開講、部活動支援等についても検討できないだろうか。• 垂井町では、「早寝早起き朝ごはんの町、挨拶の町、読書の町」を合言葉としている。高校とも連携を深めていきたい。• 在籍している生徒や保護者の意見を幅広く聴取できると、高校活性化のヒントを得られるのではないか。• 高校の生徒が家庭や校外で「不破高校が楽しい」と胸を張って言ってくれることが、一番の学校PRだと考えている。 |
|--|--|